

立教大学経済学部 自由選抜入試

2020年度

J r B 総 合 科 目

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてH Bの黒鉛筆またはH Bの黒芯のシャープペンシルで記入することになっています。H Bの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は8頁までとなっています。試験開始後、ただちに頁数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子とメモ用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読み、下記の設問1～5に答えなさい。解答は解答用紙の所定欄にしるしなさい。

現在では、多くの人は結婚とは自由な恋愛に基づいて行われるものであると考えているだろう。しかし人類の歴史を見れば、長い間結婚を規定する最大の要因であったのは、実は経済的・政治的要因であり、自由な恋愛ではない。ヨーロッパでさえ、結婚が自由な恋愛に基づいて行われるべきであるという考え方が登場してきたのはせいぜい18世紀以降のこととされ、実際に人々が自由な恋愛に基づいて結婚することが一般的になったのは、たかだかここ数十年のことすぎない。そしてこの自由な恋愛に基づく結婚こそが、結婚という制度を危機に陥れている最大の要因であるとしたら、皆さんはどう思うだろうか。このことを日本の結婚の歴史を少し遡って考えてみることにしよう。

1960年代までの日本における結婚とは、一言で言えば、「伝統的な家制度」の下での結婚であった。この当時の日本では、人々が主に従事していた産業は農業やサービス産業であり、また多くの家計は現在のような被雇用者としてではなく、自営業を営んで生計を立てていた。そのためこの当時は三世代が同居している大家族も珍しくなく、家族は単なる血縁集団ではなく、同時にそれを成員とする企業体となっていた。それゆえ、妻とは、第一義的には、企業体の成員としての労働を無償で行うと同時に、さまざまな家事労働を（当然無償で）担う労働力の役割を期待されていたのであり、（特に男子の）子供とは、将来の企業のオーナーあるいは労働力となることを期待されていたのであった。この当時の家族にとって子供とは、いわば「投資財」だったのである。この当時の男性（特に長男）にとって、結婚しないという選択肢はあり得なかった。なぜなら、結婚するとは、妻という賃金を払う必要のない労働力を確保すると同時に、子供という将来の企業のオーナーを育てるためのものだったからである。それと同時に、女性にとっても、結婚しないという選択肢はあり得なかった。なぜなら、女性が一生結婚することなく一人で生きていけるような就職先など外部にほとんど存在しなかったからである。いずれにせよ重要なことは、男性にせよ女性にせよ、結婚とは労働力を確保するためあるいは生きるためにするものであつて、自由な恋愛の末にするものではなかったということである。以上のような事情を理解すれば、この当時の結婚の多くが、自由恋愛ではなく、いわゆる「お見合い」で行われていたことは想像に難くないだろう。にもかかわらず、と言うよりそうであるがゆえに、この当時の離婚率は、現在と比べればはるかに低く、結婚という制度はこの意味では安定的であった。なぜなら、結婚を成立させていたのが、労働力の確保や生きるためという経済的理由という確固たる実体のあるものであり、自由な恋愛=人の気持ちという移ろいやす

いものではなかったからである。結婚を維持するものとして、経済的理由は恋愛感情よりはるかに強固なのである。

その後1970年代に入り高度経済成長期を終える頃になると、日本における結婚とは、「核家族化」と「専業主婦の一般化」の下での結婚となる。この頃になると、日本の主な産業は製造業とサービス産業となり、多くの家計は現在のように被雇用者として生計を立てるようになった。また高度経済成長の結果、多くの世帯では妻が専業主婦になれるほど所得が上昇した。その結果、家族はもはや企業体ではなく、外で働く夫を支え子供を育てるものへと変容し、大家族である必要がなくなった結果、核家族化することになった。この頃になると、妻とは主に家事労働と育児を行う存在となり、子供は純粹に愛情の対象となる。日本の合計特殊出生率は1975年以降顕著に下がってくことになるが、その理由はもはや明らかであろう。子供はもはや将来の労働力ではなく、一人一人コストをかけて大切に育てられるべき存在である。各世帯はもはや多くの子供を必要としていないし、一人一人コストをかけなければならない以上、多くの子供を持つことはそもそも経済的に困難なのである。この当時の多くの男性にとって、結婚とは、社会的信用を得る手段であると同時に、妻に自分の健康を管理してもらう手段となった。それに対して、多くの女性にとって、結婚とは、やはり以前と同様に、生活をするための手段であった。パートなどの仕事は増えてきたとはいえ、女性が一生結婚することなく一人で生きていくことができるような就職先はやはり非常に乏しかったからである。

その後日本では、1985年には女子差別撤廃条約が締結され、男女雇用機会均等法が成立し、さらに1999年には男女共同参画社会基本法が成立、遅まきながら女性の社会進出と就業機会の拡大、男女の機会均等が図られることとなった。その結果、いまだに男女間の格差は小さくないとはいえ、女性の就業機会の拡大と所得水準の上昇がある程度実現された。³⁾女性が経済的に自立することがようやく可能になってきたのである。もちろん女性が経済的に自立すること自体は完全に望ましいことであり、何ら悪いことではない。しかしこのことは、もし働き続ける気さえあるのであれば、多くの女性が経済的理由で結婚する必要が希薄になってきた、あるいは結婚生活を維持する必要が希薄になってきたことを意味する。いまや多くの女性は、自由な恋愛に基づいて結婚する、あるいは結婚生活を維持するのであり、以前の日本のように経済的な理由から結婚しなければならない、あるいは結婚生活を維持しなければならない理由は少なくなってきたのである。もしそうだとすれば、女性が結婚する年齢が遅くなったり、そもそも結婚しなくなったりする、あるいは離婚しやすくなる、ことが予想されるだろう。そして女性の社会進出が進んだ先進国の多くが悩まされていることは、まさにこのような事態、すなわち人々の晩婚化、未婚化、そして離

婚率の上昇なのである。

もちろん、女性の社会進出だけが、人々の晩婚化、未婚化、離婚率の上昇の唯一の原因であるというわけではない。それ以外に数多くの要因があるだろうことは当然である。ただ、重要なことは、どのような理由であれ、人々が結婚しなくなる、あるいは離婚しやすくなるとき、何が起こるのだろうか、ということである。すぐに思いつくのは、少子化が進行するということであろう。しかし実は、結婚にはある種のセーフティネット機能が備わっている。⁴⁾ 実際、結婚していれば、一方が大きな病気になってしまっても他方が介護することができるし、一方が失業しても他方が仕事を持つていれば即座に貧困状態に陥ることを避けることができる。逆に言えば、結婚という制度が次第に崩壊してきたときに、このようなセーフティネット機能は、社会や国が代わりに担わなければならなくなるのである。人々の晩婚化や未婚化、離婚率の上昇は、少子高齢化とともに、日本の社会保障に大きな負担をかけることになるかもしれないである。

1. 文中の下線部1)に関して、家庭内で行われる家事労働の価値がGDPに算入されないのはなぜか、またそのような家事労働以外でGDPに算入されない要素にはどのようなものがあり、その理由はなぜか、合計200字程度で説明しなさい。
2. 文中の下線部2)に関連して、近年アップルやアマゾンなどの多国籍企業に関して国際的に問題にされていることにどのようなことがあるか、150字程度で説明しなさい。
3. 文中の下線部3)に関連して、それぞれ5世帯ずつから構成されるA群とB群の収入と支出が以下の表の通りであったとする。A群の世帯とB群の世帯はすべて別の世帯で、同一世帯は含まれていない。標準偏差は一部計算済みであり、小数第1位を四捨五入してある。なお、収入・支出ともに単位は万円である。下記の問i～iiiに答えなさい。

表 家計2群の比較

No.	A群		B群	
	収入	支出	収入	支出
1	312	200	480	300
2	200	150	3750	3500
3	30	100	280	200
4	100	80	310	500
5	410	3131	730	100
合計	1052	3661	5550	4600
データの代表値				
標準偏差			1330	1297

- i. A群とB群の収入について、両群の特徴を比較するためのデータの代表値としてより適切な指標は何か、その理由を150字程度で説明しなさい。なお、ここで指標を計算する場合には、小数第1位を四捨五入し、整数としなさい。
- ii. A群の収入の分散を求めなさい。なお、解答は小数第1位を四捨五入し、整数で求めなさい。
- iii. B群の収入と支出について相関係数を計算し、どのような関係にあるか、その計算過程とともに解答欄に記述しなさい。なお、計算に用いる標準偏差は、表の数値を用いること。また、相関係数は小数第3位を四捨五入し、小数第2位で解答しなさい。

4. 文中の下線部4)に関して、セーフティネットの1つとして近年議論されているベーシックインカムとはどのようなものか、150字程度で説明しなさい。
5. 人々が結婚するのが遅くなったあるいはそもそも結婚しなくなった理由で、本文に書かれているものの他にはどのようなものがあるか、あなたの考えを150字程度で説明しなさい。

【以下余白】

